



## 2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2021年2月3日

上場会社名 株式会社ドリームインキュベータ 上場取引所 東  
 コード番号 4310 URL https://www.dreamincubator.co.jp/  
 代表者 (役職名) 代表取締役CEO (氏名) 原田 哲郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 経営管理グループ長 (氏名) 上村 敏弘 TEL 03(5532)3200  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月10日 配当支払開始予定日 -  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2021年3月期第3四半期の連結業績（2020年4月1日～2020年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計） (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	19,935	19.3	△299	—	△268	—	△435	—
2020年3月期第3四半期	16,715	13.7	310	958.9	178	103.6	19	△86.8

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 83百万円 (△77.8%) 2020年3月期第3四半期 378百万円 (67.0%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	△44.53	—
2020年3月期第3四半期	2.03	1.77

(参考)

調整後経常利益 2021年3月期第3四半期 191百万円  
 2020年3月期第3四半期 661百万円  
 調整後親会社株主に帰属する四半期純利益 2021年3月期第3四半期 △249百万円  
 2020年3月期第3四半期 216百万円

(注) 当社は、当社の重要な子会社であるアイペットホールディングス株式会社(以下、アイペットHD)の完全子会社であるアイペット損害保険株式会社(当社における孫会社。以下、アイペット損保)に関して、普通責任準備金を未経過保険料方式により算定し、異常危険準備金繰入額の影響を排除した利益(調整後利益)を、損益実態を把握する上で有用な指標としております。参考では、調整後利益に基づく連結業績を開示しております。

### (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
2021年3月期第3四半期	29,691		15,006		36.2	
2020年3月期	26,424		13,638		40.2	

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 10,761百万円 2020年3月期 10,627百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	0.00	0.00	0.00	0.00	—
2021年3月期	0.00	0.00	0.00	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	—	—

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

2021年3月期の期末配当予想につきましては、未定としております。

なお、以上の状況に加え、当社の業績を示す重要な指標として、Net Asset Valueの状況を決算補足説明資料に開示しておりますので、あわせてご参照下さい。

3. 2021年3月期の連結業績予想（2020年4月1日～2021年3月31日）

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無： 無

当社グループの事業は、ビジネスプロデュース事業及びインキュベーション事業から構成されております。ビジネスプロデュース事業は比較的将来の予測が立ちやすい一方、インキュベーション事業の一部につきましては売上高の多くが株式市場における株式売却によってもたらされることから、株式市況やIPO動向に伴って振幅します。従いまして、現時点において業績予想を合理的に行うことが困難であるため、開示を控えさせていただいております。

なお、現時点で将来の業績を予想するのに有用と思われる情報を、新型コロナウイルス感染症の影響も踏まえ、4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」に記載しておりますので、ご参照下さい。

※ 注記事項

（1）当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動： 無

（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）

新規 ー社 （社名）、除外 ー社 （社名）

（2）四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用： 無

（3）会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

（4）発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2021年3月期3Q	10,407,100株	2020年3月期	10,381,400株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	599,840株	2020年3月期	638,047株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2021年3月期3Q	9,785,118株	2020年3月期3Q	9,776,865株

（注）当社は、「役員報酬BIP信託」及び「株式付与ESOP信託」を導入しております。BIP信託口及びESOP信託口が所有する当社株式は、自己株式に含めて記載しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

・本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用に当たっての注意事項等については、4ページ「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

・調整後利益に関する説明

損害保険会社は、保険業法施行規則第70条1項1号に基づき、未経過保険料残高と初年度収支残高の大きい方を責任準備金として負債計上し、当事業年度の残高と前事業年度の残高の差分を繰入額として当事業年度に費用計上します。

アイペット損保では、現状、財務会計上は初年度収支残高によっておりますが、当社ではアイペット損保の損益実態を把握する指標として未経過保険料方式による損益を重要視しております。その理由として、未経過保険料方式により算定された利益は、発生主義による利益と同額となるため、期間比較が可能となり経営実態を適切に反映していると考えております。一方で、初年度収支残方式は、収支相当の原則に立脚しており、当事業年度に係る保険料から保険金、事業費を差し引いた残額が、翌事業年度以降の保険金支払い等の原資になるという考え方であり、初年度収支残方式により算出された利益は、発生主義による利益とならないことから期間比較が出来ないと考えております。

また、上場企業のうち、初年度収支残方式に基づく損害保険会社が存在しないため、損害保険会社を企業集団にもつ競合他社との比較の観点からも、当社の業績を評価する上で未経過保険料方式により算定された利益が、投資家に有用と考えております。

異常危険準備金は、異常災害による損害の填補に備えるため、収入保険料の一定割合を毎期積み立てる責任準備金の一種であり、大蔵省告示第232号第2条の別表に記載されている損害率を超える場合に、その損害率を超える部分に相当する金額を取崩すこととされています。アイペット損保は損害率が基準よりも低いため、収入保険料に3.2%を乗じた金額を毎期積み立てております。

そのため、アイペット損保について、未経過保険料方式に異常危険準備金を加味した利益が、アイペット損保の経営実態を把握する上で有用な指標と考えており、それを基礎とした連結業績（調整後利益）は、投資家が当社の業績を判断する上で有用な情報と考えております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
(4) 営業の状況	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	7
(1) 四半期連結貸借対照表	7
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	9
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	11
(追加情報)	11
(セグメント情報)	13

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

(報告セグメントの変更について)

第1四半期連結会計期間において、従来、「プロフェッショナルサービスセグメント」としていた報告セグメントの名称を「ビジネスプロデュースセグメント」に、「営業投資セグメント」としていた報告セグメントの名称を「ベンチャー投資セグメント」に、「保険セグメント」としていた報告セグメントの名称を「ペットライフスタイルセグメント」に変更しております。また、「その他」の一部を構成していた連結子会社である株式会社ワークスタイルラボ（以下、WSL）について、「HRイノベーションセグメント」の区分を新設し、報告セグメントとして変更しております。詳細は、「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記（3）四半期連結財務諸表に関する注記事項（セグメント情報等）Ⅱ当第3四半期連結累計期間 2. 報告セグメントの変更等に関する事項」をご参照下さい。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。

### (1) 経営成績に関する説明

当社及び当社グループの当第3四半期連結累計期間における経営成績は、売上高は19,935百万円（前年同四半期比19.3%増）、経常損失は268百万円（前年同四半期は経常利益178百万円）、親会社株主に帰属する四半期純損失は435百万円（前年同四半期は親会社に帰属する四半期純利益19百万円）となりました。

当第3四半期連結累計期間における報告セグメントごとの業績は、以下のとおりです。

(ビジネスプロデュース事業)

ビジネスプロデュース事業では、「次代を担う大きな事業創造」（＝ビジネスプロデュース）をコンセプトに、大企業や政府向けの戦略コンサルティング、M&Aファイナンシャル・アドバイザー、経営幹部育成支援、アジア地域等における戦略コンサルティングを提供しております。

ビジネスプロデュース事業（セグメント）においては、売上高は前年第2四半期連結会計期間に市場調査事業から撤退したこと、及び新型コロナウイルス感染症により、企業の一時的な新規事業マインドが冷え込んだ影響で、前年同四半期比で減少いたしました。また、セグメント利益は前述の市場調査事業から発生していた損失の解消、及び管理コストの見直しを行った結果、改善しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は1,639百万円（前年同四半期は2,020百万円）、セグメント利益（営業利益）は741百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）654百万円）となりました。

(インキュベーション事業)

インキュベーション事業は、ベンチャー投資セグメント、ペットライフスタイルセグメント、HRイノベーションセグメントにより構成されております。

ベンチャー投資セグメントにおいては、新規投資活動として、提携先ベンチャーキャピタルと連携し、日本・インドを中心に投資を実行しております。

既存投資先ベンチャー企業に関しては、当社が深く支援することで成長加速が見込まれる企業において資金と人材を投入しております。当第3四半期連結累計期間においては複数件のトレードセールによる売却等を実施した一方で、投資先5社の価値下落に伴い、減損損失等を計上いたしました。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は970百万円（前年同四半期は715百万円）、セグメント損失（営業損失）は582百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）130百万円）となりました。

ペットライフスタイルセグメントとは、連結子会社（孫会社）であるアイペット損保が運営するペット向け医療保険等を指します。

当第3四半期連結累計期間において、新規保険契約数が旺盛なペット需要を背景に極めて順調に推移したことにより、売上高が拡大し、順調な成長を続けております。費用面では、保険契約の伸展に伴う諸手数料及び集金費や新規契約獲得に係る事業費、保険金請求件数の増加による正味支払保険金や損害調査費が増加いたしました。また、新型コロナウイルス感染症による当第3四半期連結累計期間の業績に対する大きな影響はございません。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の売上高は16,573百万円（前年同四半期は13,356百万円）、セグメント利益（営業利益）は246百万円（前年同四半期はセグメント利益（営業利益）289百万円）となりました。

なお、アイペット損保の損益実態を把握する上で有用な指標である調整後利益では、セグメント利益（営業利益）705百万円（前年同四半期は調整後セグメント利益（営業利益）771百万円）となっております。

HRイノベーションセグメントとは、フリーコンサルタントのマッチング・プラットフォーム事業を運営するWSLを指します。前連結会計年度において実施した、DX化の対応を含めた体制強化の施策により売上規模が拡大し、損失も縮小傾向にあります。新型コロナウイルス感染症の影響による相殺もあり、当第3四半期連結累計期間の売上高は775百万円（前年同四半期は633百万円）、セグメント損失（営業損失）は56百万円（前年同四半期はセグメント損失（営業損失）87百万円）となりました。

以上の当社及び当社グループの売上をまとめると以下のとおりです。

区分	第20期 第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)		第21期 第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	
	金額 (百万円)	構成比 (%)	金額 (百万円)	構成比 (%)
ビジネスプロデュース事業 (セグメント)	2,020	12.1	1,639	8.2
インキュベーション事業	14,706	88.0	18,318	91.9
(内訳)				
ベンチャー投資セグメント	715	4.3	970	4.9
ペットライフスタイルセグメント	13,356	79.9	16,573	83.1
HRイノベーションセグメント	633	3.8	775	3.9
セグメント間の内部売上高又は振替高	△10	△0.1	△22	△0.1
合計	16,715	100.0	19,935	100.0

(参考) 当社は、当社の重要な連結子会社（孫会社）であるアイペット損保に関して、損益実態を把握する上で有用な指標として以下の調整を加味した利益を開示しております。

①普通責任準備金：当該金額の算定を初年度収支残方式から未経過保険料方式に変更

②異常危険準備金：繰入額の影響を排除

財務会計ベースのペットライフスタイルセグメント損益から調整後利益ベースのペットライフスタイルセグメント損益へ調整及び、調整後利益ベースでの連結業績は以下のとおりです。

なお、調整後利益は異常危険準備金の影響を除いて算定されるため、税効果会計における企業分類の変更による影響は小さくなり、調整後親会社株主に帰属する四半期純利益又は調整後親会社株主に帰属する四半期純損失は財務会計ベースと比べ減少しております。

(単位：百万円)

	第20期 第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	第21期 第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
財務会計ベースのペットライフスタイルセグメント損益	289	246
①に関する調整額(注)	59	△63
②に関する調整額(注)	423	523
調整後ペットライフスタイルセグメント損益	771	705
調整後連結経常利益	661	191
調整後親会社株主に帰属する四半期純利益又は調整後親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	216	△249

(注) 戻入れの場合はマイナスとなります。

(2) 財政状態に関する説明

連結貸借対照表

当第3四半期連結会計期末における資産は29,691百万円(前連結会計年度末比3,266百万円増)、負債は14,685百万円(同1,898百万円増)、純資産は15,006百万円(同1,368百万円増)となっております。

前連結会計年度末比での資産の増加の主な理由は、現金及び預金の増加等が挙げられます。

負債の増加の主な理由は、保険業法に基づく保険契約準備金の増加等が挙げられます。

純資産の増加の主な理由は、保有株式の時価変動及び為替変動によるその他有価証券評価差額金の増加等が挙げられます。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

新型コロナウイルス感染症拡大の影響について、足元では感染再拡大の傾向が強まり景気の先行きについて不透明な状況が続いております。各事業に与える影響については、現段階では以下を見込んでおります。

(ビジネスプロデュース事業)

将来の売上高を構成する新規プロジェクトの受注高は、不調であった第2四半期連結会計期間から復調し、改善傾向にあります。これにより第4四半期連結会計期間の売上高は当第3四半期連結会計期間を上回ると見込んでおります。但し、企業の新規事業マインドが再び冷え込んだ場合、受注が減少するリスクが見込まれます。

将来の受注減少リスクを抑えるべく、継続的・長期的なプロジェクトの受注増加に取り組んでおります。

(インキュベーション事業)

ペットライフスタイルセグメントは、引き続き拡大傾向にあるペット保険市場を背景として継続的な売上高の成長を見込んでおります。費用が増加しておりますが、保険契約の新規獲得増加によるものであり、保険料収入は複数年に渡って計上されることから、引き続き成長トレンドにあると考えております。また、現時点では新型コロナウイルス感染症の影響は軽微と見ており、アイペットHDが開示しております業績予想も下方修正はございませんが、影響の長期化に伴って当該予想は変更になる可能性があります。その他詳細につきましてはアイペットHDが開示しております決算短信の業績予想及び関連開示資料をご参照下さい。

HRイノベーションセグメントは、当第3四半期連結累計期間での影響は限定的であるものの、今後の影響の長期化に伴って受注が減少するリスクが見込まれます。

ベンチャー投資セグメントは、業績が株式市況やIPO動向に伴い振幅することから、見通しは立てにくい状況が続くものと考えております。新型コロナウイルス感染症により、投資先企業のIPOの延期等や、価値下落による減損損失等の計上などの影響が発生しております。また、市況が長期的に低迷する等の状況に陥った場合は、キャピタルゲインの低下や投資先の引当が拡大するリスクが見込まれます。

(4) 営業の状況

(生産実績)

当社及び当社グループは生産活動を行っておりませんので、該当事項はありません。

(受注実績)

当第3四半期連結累計期間における受注実績は次のとおりであります。

なお、ベンチャー投資セグメントにつきましては、受注という概念がございませんので記載しておりません。

区分	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	前年同四半期比 (%)
	金額 (百万円)	金額 (百万円)	
ビジネスプロデュース事業 (セグメント)	2,368	1,725	△27.1
インキュベーション事業	14,081	17,396	23.5
(内訳)			
ペットライフスタイルセグメント	13,356	16,573	24.1
HRイノベーションセグメント	724	823	13.6
合計	16,450	19,122	16.2

(注) 1 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

2 各セグメントの金額は、セグメント間の取引を含んでおります。

(販売実績)

当第3四半期連結累計期間における販売実績は次のとおりであります。

区分	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)	
	金額 (百万円)	前年同四半期比 (%)
ビジネスプロデュース事業 (セグメント)	1,639	△18.9
インキュベーション事業	18,318	24.6
(内訳)		
ベンチャー投資セグメント	970	35.7
ペットライフスタイルセグメント	16,573	24.1
HRイノベーションセグメント	775	22.3
セグメント間の内部売上高又は振替高	△22	113.5
合計	19,935	19.3

(注) 上記金額には、消費税等は含まれておりません。

(投資実績)

証券種類	前連結会計年度 (自 2019年4月1日 至 2020年3月31日)				当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)			
	投資実行高		期末投資残高		投資実行高		期末投資残高	
	金額 (百万円)	会社数 (社)	金額 (百万円)	会社数 (社)	金額 (百万円)	会社数 (社)	金額 (百万円)	会社数 (社)
株式・出資金等	1,702	25	7,200	68	1,628	21	7,254	75
新株予約権等	—	1	—	9	50	1	50	8
合計	1,702	26	7,200	72	1,678	22	7,304	80

- (注) 1 新株予約権等は、当社コンサルティングサービスの対価として発行会社から無償で取得している場合がありますが、上表においては、その際の金額をゼロとし会社数のみを記載しております。
- 2 株式、新株予約権等を重複して投資を行っている会社があります。
- 3 時価のあるものについては、取得原価を記載しております。
- 4 上表には余剰資金の運用目的の有価証券及び投資有価証券は含まれておりません。
- 5 当社グループは、未公開時点では投資をしていなかったPost-IPO企業の株式をIPO後に取得する場合がありますが、上表には当該投資金額及び会社数は含まれておりません。
- 6 期末において保有している新株予約権等を全て行使した場合の株式取得価額の総額は、以下のとおりであります。

前連結会計年度	当第3四半期連結会計期間
105百万円	103百万円



2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	4,745	6,603
受取手形及び売掛金	2,917	3,303
金銭の信託	1,013	—
営業投資有価証券	6,392	6,798
有価証券	4,968	4,956
投資損失引当金	△150	△120
たな卸資産	34	19
短期貸付金	21	631
1年内回収予定の長期貸付金	—	81
その他	562	611
貸倒引当金	△7	△10
流動資産合計	20,497	22,875
固定資産		
有形固定資産	491	676
無形固定資産		
のれん	403	280
ソフトウェア	82	1,065
ソフトウェア仮勘定	1,982	1,354
その他	120	101
無形固定資産合計	2,588	2,802
投資その他の資産		
投資有価証券	992	1,501
長期貸付金	147	69
繰延税金資産	1,372	1,399
その他	402	427
貸倒引当金	△67	△60
投資その他の資産合計	2,847	3,337
固定資産合計	5,927	6,816
資産合計	26,424	29,691

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	194	141
短期借入金	825	1,350
1年内返済予定の長期借入金	286	236
リース債務	11	10
未払金	346	447
保険契約準備金	8,869	10,484
支払備金	1,290	1,627
責任準備金	7,579	8,857
未払法人税等	249	89
株主優待引当金	31	4
賞与引当金	144	124
役員賞与引当金	—	15
その他	564	526
流動負債合計	11,521	13,431
固定負債		
長期借入金	912	888
リース債務	28	37
繰延税金負債	41	35
株式給付引当金	268	252
その他	14	39
固定負債合計	1,265	1,253
負債合計	12,786	14,685
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	4,978	4,990
資本剰余金	4,412	4,437
利益剰余金	3,078	2,642
自己株式	△1,073	△1,002
株主資本合計	11,396	11,068
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△644	△173
為替換算調整勘定	△125	△133
その他の包括利益累計額合計	△769	△306
新株予約権	40	18
非支配株主持分	2,970	4,227
純資産合計	13,638	15,006
負債純資産合計	26,424	29,691

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
(四半期連結損益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
売上高	16,715	19,935
売上原価	8,873	11,755
売上総利益	7,842	8,180
販売費及び一般管理費	7,531	8,479
営業利益又は営業損失(△)	310	△299
営業外収益		
受取利息	16	17
受取配当金	3	7
投資有価証券売却益	—	87
その他	9	9
営業外収益合計	29	122
営業外費用		
支払利息	7	7
投資有価証券売却損	81	—
固定資産除却損	40	17
為替差損	11	23
その他	21	42
営業外費用合計	162	91
経常利益又は経常損失(△)	178	△268
特別利益		
新株予約権戻入益	—	14
事業整理益	11	—
特別利益合計	11	14
特別損失		
役員退職慰労金	—	60
特別損失合計	—	60
税金等調整前四半期純利益又は税金等調整前四半期純損失(△)	189	△313
法人税、住民税及び事業税	281	236
法人税等調整額	△188	△138
法人税等合計	93	98
四半期純利益又は四半期純損失(△)	96	△412
非支配株主に帰属する四半期純利益	76	23
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	19	△435

(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失(△)	96	△412
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	291	504
為替換算調整勘定	△10	△7
その他の包括利益合計	281	496
四半期包括利益	378	83
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	296	26
非支配株主に係る四半期包括利益	81	57

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(追加情報)

(表示方法の変更)

(四半期連結貸借対照表関係)

1. 前連結会計年度において、「投資その他の資産」の「投資有価証券」に含めて計上しておりました当社の連結子会社であるアイペット損保が資産運用目的で保有する有価証券は、今後見込まれる周辺事業への拡大を見越した当社の業績管理方針の変更に伴い、事業の実態をより適切に反映させるため、第1四半期連結会計期間より「流動資産」の「有価証券」として表示する方法に変更いたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度末の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、「投資その他の資産」の「投資有価証券」に表示していた4,968百万円は、「流動資産」の「有価証券」として組み替えております。

2. 前連結会計年度において、「流動資産」の「その他」に含めて計上しておりました短期貸付金は、金額的重要性が増したため、当第3四半期連結会計期間より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度末の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、「流動資産」の「その他」に表示していた21百万円は、「短期貸付金」として組み替えております。

3. 前連結会計年度において、「無形固定資産」の「その他」に含めて計上しておりましたソフトウェアは、金額的重要性が増したため、当第3四半期連結会計期間より独立掲記することとしております。この表示方法の変更を反映させるため、前連結会計年度末の連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、「無形固定資産」の「その他」に表示していた82百万円は、「ソフトウェア」として組み替えております。

(四半期連結損益計算書関係)

前第3四半期連結累計期間において、「営業外収益」の「受取配当金」、「その他」に含めておりました「金銭の信託運用益」、「投資有価証券評価益」及び「営業外費用」の「投資有価証券売却損」に含めて計上しておりました当社の連結子会社であるアイペット損保が資産運用目的で保有する有価証券等に係る運用損益は、今後見込まれる周辺事業への拡大を見越した当社の業績管理方針の変更に伴い、事業の実態をより適切に反映させるため、第1四半期連結会計期間より「売上高」又は「売上原価」として表示する方法に変更いたしました。この表示方法の変更を反映させるため、前第3四半期連結累計期間の四半期連結財務諸表の組替えを行っております。

この結果、「営業外収益」の「受取配当金」に表示していた71百万円と、「その他」に表示していた「金銭の信託運用益」5百万円及び「投資有価証券評価益」5百万円は「売上高」として組み替えております。また、「営業外費用」の「投資有価証券売却損」に表示していた「投資有価証券売却益」38百万円は「売上高」に、「投資有価証券売却損」9百万円は「売上原価」として組み替えております。

(事業の譲受)

1. 当社は、2020年10月21日開催の取締役会において、当社子会社であるペットオーライ株式会社（当該事業譲受のために設立）が、株式会社リクルートより、同社が展開するペットオーライ事業の譲り受けを決議し新たな事業を開始いたしました。

(1) 事業譲受の目的

ペットライフスタイル事業における事業拡大

(2) 事業譲受の相手会社名称

株式会社リクルート

(3) 譲受事業の内容

ペット健康相談及びペット関連情報プラットフォームの企画・開発・運営事業

(4) 譲受事業の資産・負債の項目及び金額

譲受対象となる資産及び負債は僅少であります。

(5) 譲受の時期

2020年12月1日

2. 当社は、2020年12月9日開催の取締役会において、株式会社樫出版社及び同子会社であるピークス株式会社より、株式会社樫出版社が保有する一部の出版事業、及びピークス株式会社の全事業を、新設した当社子会社（ピークス株式会社の現商号を続用予定）が譲り受け、新たな事業を開始することを決議いたしました。

(1) 事業譲受の目的

デジタルメディア関連における事業拡大

(2) 事業譲受の相手会社名称

株式会社樫出版社及びピークス株式会社

(3) 譲受事業の内容

- ・趣味に関するメディアIP事業（雑誌/デジタルメディア）
- ・デジタルマーケティング/デジタルサービスの企画・開発・制作・運用
- ・映像/Webコンテンツの企画制作
- ・出版物のデザイン

(4) 譲受事業の資産・負債の項目及び金額

譲受対象となる資産及び負債は僅少であります。

(5) 譲受の時期

2021年2月5日（予定）

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ビジネス プロデュース セグメント	ベンチャー投資 セグメント	ペット ライフスタイル セグメント	HRイノベーション セグメント	計			
売上高								
外部顧客への 売上高	2,020	715	13,356	623	16,715	16,715	-	16,715
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	-	-	10	10	10	△10	-
計	2,020	715	13,356	633	16,726	16,726	△10	16,715
セグメント利益 又は損失(△)	654	130	289	△87	986	986	△675	310

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△675百万円は各セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社での営業活動に関わる費用及び一般管理費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第3四半期連結累計期間(自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					合計	調整額 (注1)	四半期連結 損益計算書 計上額 (注2)
	ビジネス プロデュース セグメント	ベンチャー投資 セグメント	ペット ライフスタイル セグメント	HRイノベーション セグメント	計			
売上高								
外部顧客への 売上高	1,639	956	16,573	767	19,935	19,935	-	19,935
セグメント間の 内部売上高 又は振替高	-	13	-	8	22	22	△22	-
計	1,639	970	16,573	775	19,958	19,958	△22	19,935
セグメント利益 又は損失(△)	741	△582	246	△56	349	349	△648	△299

(注) 1 セグメント利益又は損失の調整額△648百万円は各セグメントに配分していない全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない四半期連結財務諸表提出会社での営業活動に関わる費用及び一般管理費用であります。

2 セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントの変更等に関する事項

第1四半期連結会計期間において、従来、「プロフェッショナルサービスセグメント」としていた報告セグメントの名称を「ビジネスプロデュースセグメント」に、「営業投資セグメント」としていた報告セグメントの名称を「ベンチャー投資セグメント」に変更しております。当該変更は名称変更のみであり、セグメント情報に与える影響はありません。

また、今後、当社の主要投資育成先が展開する周辺事業を拡大させていくことを企図し、「保険セグメント」としていた報告セグメントを「ペットライフスタイルセグメント」に、「その他」の一部を構成していた連結子会社であるWSLについて、「HRイノベーションセグメント」の区分を新設し、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。

当該変更に伴うセグメント情報に与える影響については「2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項(追加情報)」において記載したものと同様の組替えをペットライフスタイルセグメントにおいて行っておりますのでご参照下さい。

なお、前第3四半期連結累計期間のセグメント情報は、変更後の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。